

「人間関係づくりの演習と道徳①」

～「いな運送」で認め合う温かい人間関係づくりを～

土田 雄一

道徳の授業だけでなく、授業づくり、学級づくりの基盤には「人間関係と信頼関係づくり」が必要であることはいうまでもない。では、その基盤をどのようにして築いたらよいのだろうか。ここでは、人間関係づくりに役立つ演習を紹介し、演習と道徳授業との関連について述べる。

「しりとり」は最強の関係づくりの演習

初対面やよく知らない人同士の関係づくりに、「しりとり」をよく活用する。これが意外に効果的。それはなぜか。まずはルールが簡単。老若男女問わずだれでも理解できる。「前の人の言葉を受け取る」ことでつながりが生まれ、「声をだす」ことで心が開かれやすくなる。メンバーの回答に「反応がある」と受け入れられる感覚が生まれる。

聴き方「いな運送」

ウォーミングアップが終わったら、「ルールを追加」する。それは聴き方の「いな運送」だ。

い=いいねえ
な=なるほど
運=うんうん
送=そうそう・そうだね

今度は、メンバーが言った言葉に他のメンバーが「いな運送」で反応することを約束とするのである。「ゲームだよ」と言えば楽しくできる。

たとえば、お題を「教室にあるもの」とする。「つくえ」「いいねえ」「チョーク」「なるほど～」。「時間割」「うんうん」「そうじ用工具箱」「そうそう」。などである。

これは、やってみると意外に楽しい。お互いに

楽しい。笑顔が生まれる。ルールとはいえ、認めるリアクションがあると「受け入れられている感覚」になり、グループへの「所属感」が生まれる。

お題を「冷たいもの」や「やわらかいもの」のほか、「夏に使うもの」などに変えたり、ゲームを変えたりすると楽しく関係づくりができる。

道徳授業と「いな運送」

道徳の時間は、「自分の考えたことや思いをそれぞれが発言できる時間」である。しかし、学年が進むにつれ、自分の考えを話すことに抵抗感が生じる。周囲の目を気にするようになる。それは、発達段階から考えるとしかたのないことかもしれない。しかし、だからこそ、「それぞれの意見はちゃんと受け止めていますよ」というメッセージをお互いに発信することが、道徳の時間を充実させるために必要なのである。

「いいねえ」「なるほど」「うんうん」「そうだね」という反応は、発言者に安心感を与える。受容的・共感的聴き方である。

「礼儀」の授業と関連させる

内容項目2-(1)礼儀の授業と関連して扱うのもよい。たとえば、5年「日本の心とかたち—真・行・草—」という資料がある。おじぎを例に形と心が一体となる日本の礼儀の美しさを扱った資料である。おじぎも形だけだと相手への謝罪・誠意は伝わらない。心が伴ってこそ、気持ちが伝わる礼儀となる。「いな運送」も相手を見て、「相手の思いを受け取ろう」とする気持ちがあれば、より深く相手の理解ができる。相手も心地よく話すことができ、「心と形の一体化」が実感しやすくなる。

「いな運送」が口癖のように自然にできるよう学級・道徳の時間にしたいものである。